

政務活動実施報告書

令和7年10月3日

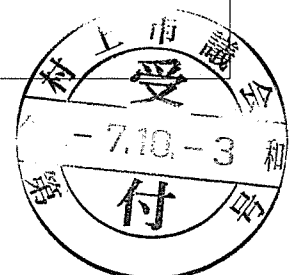
村上市議会議長 三田 敏秋 様

議員名 野村 美佐子



私は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

用 務 名	第76回（オンライン）市町村議会議員研修会
実 施 日 時	令和7年8月22日（金） 午後 1時30分 ～ 午後 3時45分
用 務 先	※オンライン開催
参加議員名	※同行議員がある場合記入すること。
全体参加者数	※同行議員がある場合記入すること。 名
概要及び所見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 別紙記載
備 考	



別紙 第76回地方議会議員研修会の概要と所見

議員名 野村 美佐子

テーマ こども誰でも通園制度に市町村はどう対応すべきか

<概要>

- ・人口減少が止まらず、少子化が予想以上に早く進行している問題に直面し、その状況がどの程度深刻なのか、なぜ人口が減少するのかを考察し、国が進める異次元の少子化対策の内容と問題点、課題を学ぶ。
- ・新たに創設された「子ども誰でも通園制度」の緊急性と課題、問題点を研究者からと実践している保育園からの報告で検証する。
- ・最後に、地方からの少子化対策、各自治体独自の地域にあった子育て支援策等の事例も含めた提案や方向性を学ぶ。

<所見>

全国的に人口減少、少子化が進み、東京などの都市部への一極集中も止まらず、村上市でも予想を上回る形で少子高齢化、人口減少が進んでいる。

国も異次元の少子化対策として制度を打ち出さざるを得ず、子育て支援策などを出してきている。そのことも大事だが、村上市の実情と地域の特色にあった少子化対策を考えていくことがとりわけ大事だと思った。2026年度から実施の「子ども誰でも通園制度」は就労していない保護者の家庭でも利用できるとはいえ、月間の利用時間が少なく、先行実践している保育園の報告でも、ベテラン保育士でないと急に預けられた子どもの対応ができないなど問題の多い施策だと感じた。

根本的には、若年層の賃上げ、女性の正規職員としての働き方を広げるなど、安心して子育てできる経済的基盤や長時間労働の規制、教育費、特に大学授業料の引き下げなど負担軽減こそ国がやるべき少子化対策ではないかと思った。

村上市も他市に先行して実施している、小中学校の学校給食無償化や、国保の18歳以下の均等割廃止など、独自の子育て支援策をさらに広げていくことが、地方からの少子化対策として重要であることを痛感した。